

令和7年度外部評価の概要（富山農林振興センター）

1 新規就農者の育成・確保と担い手経営体の発展支援

項目	各外部評価委員コメント	対応措置方向
<p>1 新規就農者の育成・確保</p> <p>2 担い手経営体の経営発展・改善支援</p>	<p>[必要性・貢献可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の担い手の高齢化が急速に進んでいることなどの現状を考えると新規農業者の育成・確保と担い手経営体の育成・支援策は緊急の課題になっているといえる。 ・農業従事者の高齢化と担い手不足による営農組織の存続が懸念され、そのための取組みは高く評価され、その貢献度は大きい。 ・農業の担い手不足はこれから益々問題になってくると思われる。重要な課題であり貢献度は大きいと思われる。 ・新規就農者の育成・確保は喫緊の課題であり、さらに担い手経営体の支援に対する門戸を広げた体制が必要。 ・新規就農者の確保は喫緊の課題であり、しっかりと対策を講じていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の高齢化や後継者不足が深刻となるなか、リタイアする農業者の後継者を確保し、経営の円滑な継承や産地の維持・発展のためには、技術力と経営感覚に優れた若い担い手を育成・確保することが重要と考えます。今後も関係機関と連携し、産地・地域の受入れ体制の構築や新たな人材の呼び込みなどマッチングを支援してまいります。併せて、関係機関が一体となった支援チームで、新規就農者の早期定着化や経営の早期安定化を支援してまいります。
	<p>[取組み内容の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就農タイプ別相談、個々の希望者に適した補助事業の支援、積極的な情報発信、そして経営体への支援策などの取組みは妥当であると判断される。 ・産地提案書策定予定の協議会への支援や専門家派遣による個別相談の取組みは、妥当であり評価できる。 ・妥当かつ適切と思われる。 ・呉羽梨産地の取組みを見ても地域にいい影響を与えている。 ・取組みは妥当であると考え。 ・新規就農者・担い手ともに経営改善や技術指導は継続的な支援が必要。 ・農業高校の卒業生に対する就農の啓発活動をもっと前面に出す必要があるのでは。金のタマゴに将来の夢に向けた農業の素晴らしさを知ってもらう機会を積極的に作って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先行事例である呉羽梨の産地一体となった新規就農者受入れ体制の整備と成果は、他の産地にとっても力強い後押しとなっており、今後も希望産地の掘り起こしに努め、産地の合意形成や産地提案書の作成を支援し、就農希望者から選ばれる産地として魅力を発信してまいります。 ・また、多様化する就農希望者に対して、就農までの道筋を支援することと併せて、就農後の様々な技術・経営課題に対し、継続的に支援し、担い手経営体への育成を図ってまいります。 ・現在も農業高校生への就農啓発交流会を開催し、就農促進を図っているところではありますが、とやま農業未来カレッジや各地域担い手育成総合支援協議会等と一層連携を強化し、あらゆる機会を通じて、農業の魅力発信に努めてまいります。

	<p>[進捗状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な課題であることを考慮すると順調に進んでいると考えられる。 ・新規就農者数は、ほぼ順調に推移しているが、今後更なる成果を期待したい。 ・概ね順調に進捗しているように思われる。 ・具体的な成果を見ても課題が進んでいる。 ・計画的に行われていると考える。 ・担い手が抱えている不安等の問題点を把握・解決するため定期的に巡回し、ヒアリングを行うことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独立自営就農や経営継承、雇用就農等多様な希望者に対応できるよう、関係機関と連携し、受入・支援体制の充実を図ってまいります。 ・担い手経営体への日頃の巡回指導を通じ、法人化や事業継承、雇用の確保、補助事業の活用希望等の情報収集を欠かさず、とやま農業経営総合サポートセンターでの課題解決に取り組んでまいります。
	<p>[今後の計画の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果を踏まえた課題に適しており、持続性のある計画であると判断される。 ・新規就農者数と専門家派遣による個別相談件数ともに前年度及び当該年度目標を上回る成果となっており、また、更なる成果に向けた取組みが計画されており評価できる。 ・継続的に取り組む必要がある。 ・新規就農を目指す新しい芽を育むことが第一で各種機関との連携も目指しているので期待したい。 ・青年農業者の横のつながり強化、産地提案書の掘り起こしなどに期待したい。 ・成果に至った点を整理して、他の地域に情報提供して役立ててほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も関係機関一体となった支援体制で、新規就農者の確保と早期育成・定着を支援してまいります。 ・先行事例である呉羽梨の産地一体となった新規就農者受入れ体制の整備と成果は、他の産地にとっても力強い後押しとなっており、今後も希望産地の掘り起こしに努め、産地の合意形成や産地提案書の作成を支援し、就農希望者から選ばれる産地として魅力を発信してまいります。(再掲) ・就農後は、青年農業者組織活動等への参画を促し、地域や産地での定着を支援してまいります。

[総合評価]

- まず、限られたスタッフで多様化する就農希望に対して課題ごとに現場密着型指導・支援が行われていることは評価できると考えられる。とりわけ、経営体の発展段階に応じた法人化、事業継承、補助事業など多様な経営課題ごとに専門家による指導・支援する体制は効果的であり、適切であると評価できる。
- 当振興センターの課題への取組みは評価できます。引き続き新規就農者の育成・確保と担い手経営体の発展に向け、これまで以上の取組みに期待したい。
- 法人協会、稲経等組織とカレッジ生との意見交換はあるが、カレッジ生と地域の担い手との対話、交流がないように思える。振興センター単位でもいいが農業を目指す地域での対話があっても良いと思う。
- 大規模区画整理が進行中であり、新規就農者にとって希望の持てる機会だ。あらゆる手立てを講じて農業に夢をもてる指導を期待したい。
- 産地提案書が分かりやすく、就農後のイメージもしやすそうなので、非常に良い取り組みであると考え。就農希望者のニーズに応じた対応を細かく行っている点も評価できる。就農後の状況の追いかかけや、アフターフォローも併せて行っていくべきであると考え。

- 引き続き、就農タイプ別に応じた新規就農希望者に対する相談対応や、選ばれる産地・経営体情報の発信を通じた新規就農者の育成・確保に努めるとともに、就農後においても専門家派遣の支援体制による担い手経営体の経営改善・発展を支援してまいります。
- とやま農業未来カレッジ事務局とも協議のうえ、各農林振興センター単位で地域の担い手とカレッジ生との対話や交流の機会を設けるよう検討してまいります。

2 水橋地区の大区画ほ場での園芸作物の生産拡大

項目	各外部評価委員コメント	対応措置方向
<p>1 園芸導入モデル経営体の育成・モデル経営体の活動支援</p> <p>2 主穀作経営体への園芸品目の導入推進</p>	<p>[必要性・貢献可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメ需要の低迷及びコメ価格の不安定など農家の収益構造が厳しさを増しているなかで、当該センターによる収益性の高い園芸担い手育成と園芸導入モデル経営体の育成は必要不可欠であると考えられる。 ・生産性・収益性の向上を図る（稼げる農業を実現する）ためには、大区画化・汎用化による効率化や高収益作物の作付け拡大が必要だ。 ・重要な課題であり緊急性貢献度は大きいと思われる。 ・大区画化圃場では排水性について大幅に改善されており、園芸品目導入できる環境は整っている。センターの取り組みは大きな追い風になる。 ・園芸振興にとって大規模農地は必須であるので、整備した点は評価できる。 ・何を作付けするかは個々人に委ねてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主穀作に特化した農業生産構造である水橋地区において、農地の大区画化・汎用化による、担い手への農地集積・スマート農業の推進・高収益作物の栽培による経営の安定化は緊急かつ重要な取り組みであると考えております。 ・このためにも、モデル経営体の育成を加速化させるとともに、その取り組みを地区全体に波及し、園芸品目を導入する経営体への横展開について引き続き努めてまいります。 ・作付品目については、圃場整備後の土壌条件、省力的な栽培、スケールメリットを生かした販売戦略等を考慮するとともに、担い手・地域の意向も尊重し、水橋地区の将来に向けた地域営農のあり方に即して選定するよう支援してまいります。
	<p>[取り組み内容の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大区画ほ場に対応した排水対策、機械作業精度向上と省力化指導などは取り組み内容として妥当と考えられる。 ・園芸作物の生産拡大に向け、生産から販売までの一貫的な支援を当振興センターが主となって行っていることは、大変意義のあることであり評価できる。 ・妥当かつ適切と思われる。 ・主要品目の玉ねぎ・人参・白ネギなどは作業の機械化も進んでおり、就農者も取り組みやすいのではないかと。 ・土地の物理性の改善をしている点は評価できる。 ・この取り組みについて、他の地域に情報提供し拡げていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎ・にんじん・白ねぎは、富山県において、栽培技術面・販売面で確立された園芸品目ですが、さらに、排水対策、省力機械の実証・活用、実需者ニーズに対応した販売対策等について、引き続き関係機関と連携した支援を継続し、大区画ほ場に対応した機械化一貫作業体系の技術確立、園芸品目を導入する経営体への横展開、他の地域への波及に取り組んでまいります。

	<p>[進捗状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な課題であることを考慮すると、同期間中の各産地の売り上げの増加率、園芸品目作付面積などからも順調に進んでいると考えられる。 ・園芸品目の作付面積は目標値を上回り、ほぼ順調に推移しており評価できる。 ・順調に進捗しているように思われる。 ・就農者の確保が大事。具体的成果でも経営体の増加は見えていない。水橋園芸導入推進チームと連携した新規導入経営体の確保に努力してほしい。 ・計画的に行われていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル経営体への栽培管理指導、収支分析、次年度対策、作付計画策定支援等による育成を加速化し、その取組みを地区全体に波及することにより、園芸品目を導入する経営体への横展開を図るとともに、水橋園芸導入促進チームにおいて、関係機関と連携した個別訪問による新規生産者確保や、導入品目の栽培実証等について、引き続き取り組み、導入経営体確保・販売金額向上・面積拡大に努めてまいります。
	<p>[今後の計画の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果を踏まえた持続性のある計画であると考えられる。 ・今後の対応策に掲げられている項目は、園芸作物の生産拡大に必要であり、成果に期待している。 ・継続的に取り組む必要があると思われる。 ・取り組みは始まったばかりで課題は多い。就農者に寄り添い一つ一つ解決してほしい。 ・今後予定通りに整備が進むこと、個々人がしっかりと地に足がついた生産ができることを期待したい。 ・園芸品目の導入推進は重要です。現在、作付品目は7つありますが、作付品目の多種・多様化は収益・原価面からみて非効率な面があるのではないのでしょうか。 <p>・生産された作物の販売対策をしっかりとしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作付品目については、労力分散・ほ場の有効活用・連作障害回避のため、ある程度の複数品目栽培は必要と考えておりますが、省力機械が汎用的・効率的に活用できるよう、栽培コスト面やスケールメリットを生かした販売戦略を考慮するとともに、担い手・地域の意向も尊重し、水橋地区に適した品目、実需者ニーズに対応した「マーケットイン」で「高収益」となりうる品目が選定されるよう支援してまいります。 ・生産された作物の販売対策については、水橋園芸導入促進チームにおいて関係機関と連携し、引き続き販路開拓・確保を支援してまいります。

[総合評価]

- まず、限られたスタッフで現場密着型指導・支援が行われていることは評価できると思われる。特に、園芸団地の整備への優先的支援、機械化、省力化のための富山スマート農業高精度位置補正情報サービス（富山 RTK サービス）の活用 ICT 活用などを通じたスマート農業技術の導入による省力化支援などは高齢化などによる耕作放棄農地の増加しているなかで有効な対策であると評価できる。
- 水橋地区の大区画ほ場での園芸作物の生産拡大は、稼げる農業を実現するために必要な取組みであると思う。この水橋地区での取組み・成果については、当地域だけではなく全国にも発信できることを期待したい。
- 圃場整備後の土質、土壌条件に合っているか検討する事も必要に思う。生産者が栽培してみてどう思っているのかも聞く事が必要だと思う。
- 主穀作がメインの富山県では大区画圃場の園芸作物栽培は経験を重ねていくことが大事。後に続く産地の手本となるようお願いしたい。
- 園芸の栽培面積を増やす取組みは素晴らしいと考える。一方で、たまねぎ、にんじん、白ネギなどのいわゆる「高収益作物」のみ作付けということでは、この先立ち行かないような予感がする。農家ごとに「この作物を作りたい」というものがあるはずで、そこにそれぞれが付加価値をつけることで初めて「高収益」が生み出せると考える。

- 関係機関が一体となった支援チームを中心に、担い手・地域と連携を密にして、水橋地区の大区画ほ場に適した「高収益」となりうる品目選定や、スマート農業技術を積極的に導入した省力的・効率的な園芸作物の生産体制の構築、販路開拓・確保支援等に努めるとともに、水橋地区における園芸作物の生産拡大が、モデル的な取組みとして県内外に情報発信できるよう、今後とも努めてまいります。